

なるに水くぐるこは

百六

往昔、なまなか高尙がつてゐる男の家に、召使はれてゐる女があつて、その女のところへ内記の藤原敏行と云ふ人が通つて往つた。女は容貌は美しかつたけれども、年がまだ若かつたので、艶書も満足には書けず、言葉の使ひやうさへも知らなかつたから、歌などは無論詠めなかつた。それだからその女の主人の男が、いつも艶書の草案を書いて遣つたので、男はそれとも知らず感心してゐた。或る時男が、

つれづれのながめにまさる涙川袖のみ

濡ちて逢ふよしもなし

と云つて遣ると、主人はまた女に代つて返歌を作つて、

あさみこそ袖は濡づらめ涙川身さへ流るるこ聽かばたのまむ

と答へると、男は非常に喜んで、その歌を文篋に入れて、方々の家を訪れて見せて歩いた。

そのうち男は女と逢ふことが出来たが、その後暫く経つてからこんな手紙を女に送つた。

「參上致さむと存じ居り候處、生憎雨となるべき空模様相

成り候間、本意なくも躊躇致し居り候、かく雨にのみ妨げらるるは、如何ばかり不幸の身かと歎かれ候し。

これを見て主人はまた女に代つて、

かずかずに思ひ思はず問ひがたみ身を

しる雨は降りぞまされる

と云ふ返歌を送ると、男はその歌の心に惹かされて、篋笠も着ずに雨に濡れて来た。

百七

往昔、或る女が男の薄情を恨んで、

風吹けばこはに浪越す岩なれやわが衣

手の乾く時なき

といつも口癖のやうに云つてゐると聽いて男が歌つた。

宵ごとに蛙のあまた鳴く田には水こそ

まさされ雨は降らねぞ

百八

往昔、或る男が戀人を失つた友達のところへ、こんな歌を逸つて遣つた。

花よりも人こそ仇になりにつれいづれ
をさきに戀ひむさか見し

百九

往昔 或る男が密かに通つてゐる女があつた。その女のと
ころから、
「今宵夢に見まゐらせ候し」
と云つて來たので男が歌つた。

思ひあまり出でにし魂のあるならむ夜
深く見えば魂むすびせよ

百十

往昔 或る男が或る高貴な女のところへ、亡くなつた人を
弔ふやうな體裁で云つて遣つた。

いにしへはありもやしけむ今ぞ知るま
だ見ぬ人を戀ふるものこは

百十一

往昔 或る男が薄情な女のところへ、
戀しごはさらにも云はじ下紐の解けむ

を人はそれぞ知らなむ

と云つて遣ると女からはこんな返歌が来た。

下紐のしるしとすするもあらなくにかか
るか言は懸けずぞあるべき

百十二

往昔、或る男が深く契つた女の心變りを恨んで歌つた。

須磨の蜚の汐焼く煙風をいたみ思はぬ
方に柵引きにけり

百十三

往昔、女と別れて獨棲をしてゐる或る男が歌つた。

長からぬ命のほごに忘るるは如何に短
きところなるらむ

百十四

往昔、仁和の帝が芹河に行幸になつた時、或る翁が今は年
にも似合はないことのやうに思つたけれども、若い時分の經
験もあるので、大鷹の鷹匠として供奉の人達の中に交つた。
翁はその日摺狩衣を着てゐたが、その袂には鶴の形を縫ひ付

けて、次のやうな歌が書いてあつた。

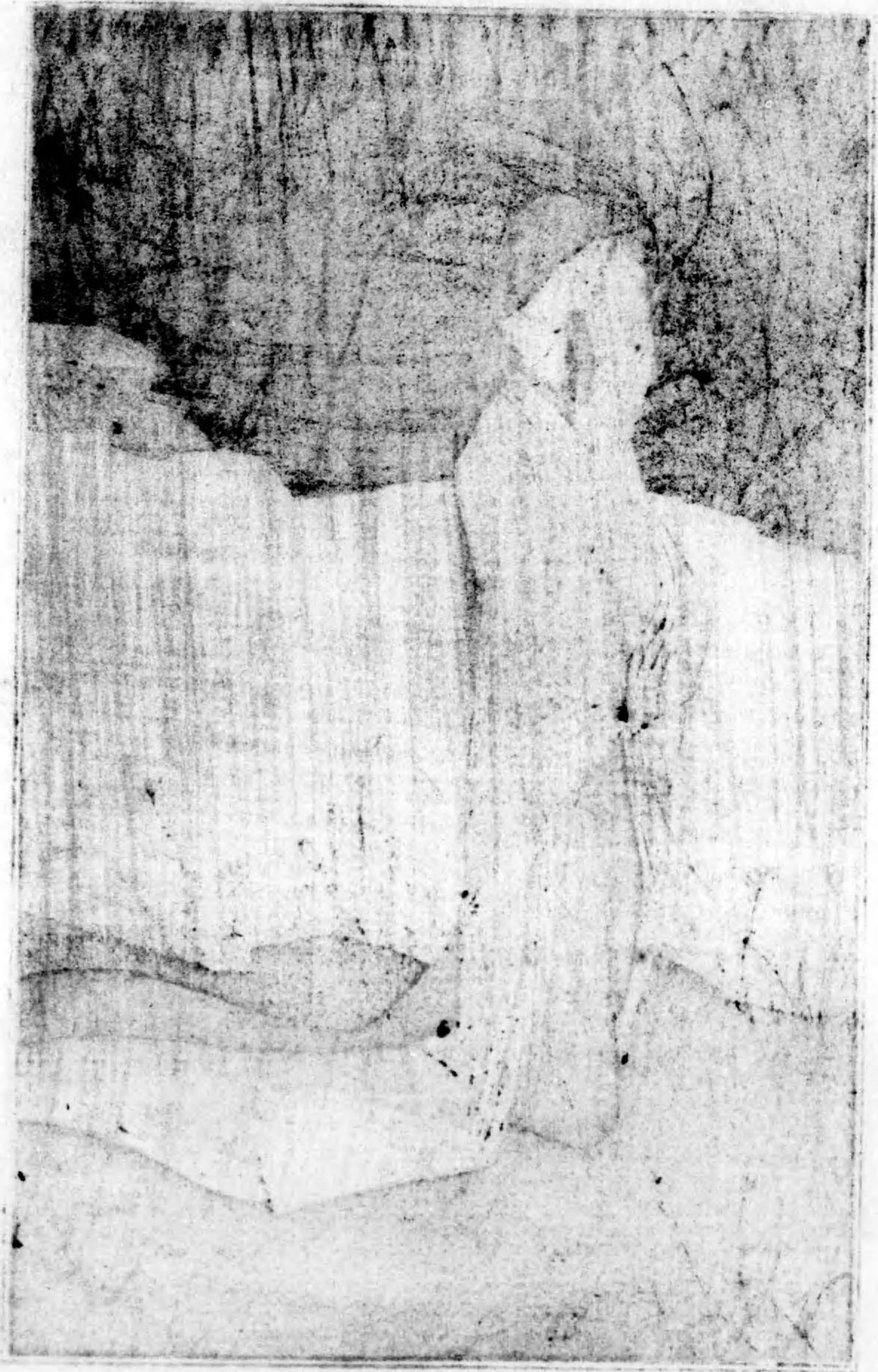
翁さび人なごがめそ狩衣今日ばかりぞ
ご鶴も鳴くなる

陛下はその歌が御心に障つたものと見えて、いつになく御機嫌が悪かつた。己の老を歎いたのだが、供奉の老人達の中には自分のことを諷したやうに思つた人もあつたやうである。

百十五

往昔 陸奥の國に或る男と女とが住んでゐたが、男が都へ往くと云ふのを、女は非常に悲しがつて、せめて餞別をしよ





うと云ふので、興の井都島と云ふところで酒を飲んで歌った。

おきのいて身を焼くよりも悲しきは都

島邊の別れなりけり

男はこの歌を聴いて哀れになつて、またそこに留まることになつた。

百十六

往昔、或る男が思ひ懸けなくも、遠く陸奥の國まで漂泊をして来て、都の戀人のところへ云つて遣つた。

浪間より見ゆる小島の濱ひさぎ久しく

なりぬ君に相見で

さうしてその手紙には、これまでの放縦を悔いた文句が書き加へてあつた。

百十七

往昔 或る帝が住吉に行幸になつたことがあつた。その時

わが見ても久しくなりぬ住吉の岸の姫

松幾代經ぬらむ

と云ふ御製をお詠みになると、明神もその歌に感じ給ふて

か姿を現はして返歌をなすつた。

むつまじご君は知らずや瑞垣の久しき
世よりいはひ初めてき

百十八

往昔 久しく消息の絶えてゐた男のところから、突然
「いかでか忘れ申すべきや、近日お訪ね致すべく候
と云つて寄越したので、女が歌つた。

玉葛はふ木あまたになりぬれば絶えぬ
言の葉うれしげもなし

百十九

往昔、別れた男が形見だといつて、遺していつた物を見て
或る女が歌つた。

形見こそ今は仇なれこれなくば忘るる
時もあらしものを

百二十

往昔、まだ年が若くつて男を知るまいと思つてゐた女が、
何時の間にか、他の男と忍んで逢つてゐることが分つたので、
或る男はこんな歌を女のところへ送つた。



近江なる筑摩の祭こくせなむつれなき
人の鍋の數見む

百二十一

彼昔、梅壺から雨に濡れて出て往く人があるのを見て、
或る男が歌ひ懸けた。

鶯の花を縫ふてふ笠もがな濡るめる人
に着せてかへさむ

さうするとその人は直ぐに返歌をした。

うぐひすの花を縫ふてふ笠は否おもひ
を告げよ乾してかへらむ

百二十二

往昔、或る男が一度は戀に落ちたこともあつたのに、それを忘れてしまつてゐる女のところに、

山城の井手の玉水手にむすび頼みし甲斐もなき世なりけり

と云つて遣つたけれども、女からは何の返事もなかつた。

百二十三

往昔、或る男があつた。深草に住んでゐる女に、少し倦きて來たのでこんな歌を詠んで遣つた。

年を経て住み來し宿を出でて往なばい
ごご深草野こやなりなむ

さうすると女からの返歌に、

野こならば鶉こなりて鳴きをらむ狩に
だにやは君は來ざらむ

とあつたので、男はその歌に感じて、女のところから去らうとする心を、遂に思ひ留まつてしまった。

百二十四

往昔、或る男が何を思つてゐる時であつたか、世を歎いて悲しげに歌つた。

思ふこと云はでぞただに止みぬべきわれこひこしき人しなれば

百二十五

彼昔、或る男が重い病の床に臥して、今が最期と思はれた

時に歌つた。

つひに往く道はかねて聴きしかど昨日今日とは思はざりしを

大正六年五月



日印刷
發行

定價九拾五錢



著作者

吉井 竹久 夢

發行者

北原 義

印刷者

東京市東區區八官町十九番地
山口 七

印刷所

東京市東區區八官町十九番地
忠愛 社 郎 雄 二 勇

發行所

東京市麴町區有樂町壹丁目參番地
阿蘭陀書房

電話本局 一三〇九二二三
一五二五九六
編管東京 一四四八九番

阿蘭陀書房新刊書



書目表

第一冊	...
第二冊	...
第三冊	...
第四冊	...
第五冊	...
第六冊	...
第七冊	...
第八冊	...
第九冊	...
第十冊	...

阿蘭陀書房

阿蘭陀書房新刊書

文學博士 森 鷗 氏著及譯

詩集 沙羅の木

四六版天竺
布製箱入

定價 壹圓
送料 八錢

近代獨逸詩歌の精神を知らんとする人は本書を讀め

譯詩、アームル、モルゲンステルン、クラアンド、ビヨルンソン、シヨツテリウス、

歌劇、オルフェウス

詩、十八篇、歌百首

文學博士 上 田 敏氏撰註

小

唄 (忽三版)

小形箱入
高雅美本

定價 六拾五錢
送料 六錢

幽婉がぎりなきわが民俗藝術の精華を見

我國古來の小唄中最も調べ高く哀切の情きはまりなき山家鳥蟲歌及吉原小唄總まくりを收め周到なる註釋を附す。裝幀外裝なつかしきこと限りなし。

北原白秋氏著及畫

歌集 雲母集

四六判天竺
箱入美本

定價 壹圓五拾錢
送料 十二錢

壯麗を極めたる日本空前の大歌集

「桐の花」以後の新作六百首と白秋氏の挿畫四葉(木版着色版)を收む。裝幀華麗きはまりなく清新比するにもなし

北原白秋氏著及畫

抒情小詩 わすれなぐさ (並製)

小形布製
箱入美本

定價 六拾五錢
送料 六錢

最も懐かしく愛誦すべき抒情小詩選

白秋氏の小詩中殊に歌ひやすく調やさしき斷章小曲のかすくをとりあつめれば懐かしきこと限りなし。皮表紙上製既に第四版を賣りつくし新たに清楚なる並製を發行し普く同好の士に頒つ。

吉井勇氏著 北原白秋氏裝

歌集 未

練

小形天竺
箱入美本

定價 六拾五錢
送料 六錢

哀麗きはまりなき戀歌四百餘首

内容 未練、戀愛三昧、新弄齊、戀さめ、あだびと、おもひで、浴泉秘事、うたがひ、わかれ、容 紅燈拾遺、消息。

文學士 松村武雄氏 著

印度文學講話

四六判
箱入美本

定價壹圓貳拾錢
送料八錢

世界文學の一大奇蹟

梨俱吠陀の神話の幽玄、神呪吠陀の詩歌の瑰奇、ラーマヤナ、マハーバラタの二大英雄詩の雄麗、情熱火の如きシヤクンタラー 其他の戀愛劇の梗概十數篇を收む。豐麗にして灼爛世界文學の一大驚異たる梵文學を知らんとする人は本書を讀め。

文學士 三上節造氏譯 石井柏亭氏畫

新アラビヤナイト

上卷

小形箱入
美本 定價九十五錢
送料八錢

高級冒險探偵小説、英文學不朽の名著、

近代英文壇の巨匠スチヴンソンの一大傑作たる本書は蓋しロマンチズムの精華、英文學不朽の名著にして興趣限りなき冒險探偵小説也。上卷には「自殺俱樂部」及「一夜の宿」中卷には「大王金剛石」及「マントロア家の扉」を收む、三色版二葉、玻璃版五葉裝幀華麗きはまりなし。

水野葉舟氏 著

一年間の手紙の實例 一日一信 (再版)

小形箱入
美本

定價壹圓十錢
送料八錢

現代的書簡文範。實際的書簡辭典

すべての人が日常必ず使用するべき書簡の題目を集め、高尙にして平易、流麗にして溫雅現代に適切なるあらゆる文體を應用せる手紙、ハガキ、電報等の作例約二百通を收む。日常生活に必要なあらゆる要件を網羅したれば一面一貫せる興味ある讀物たるを共に、機に應じ所要の作例を檢出し得べき實際的辭典也。

水野葉舟氏 著

ハガキの書き方

(再版)

小形
美本

定價六拾五錢
送料六錢

ハガキを巧みに使用するは社交の一大要件也。

□ 情味の豊かなハガキはどう書くか？ □ 感動を與へるハガキはどう書くか？ □ 機智に富むハガキはどう書くか？ □ 繪ハガキの使用法 □ 年賀招待等形式的なハガキはどう書くか？ □ 其他ハガキに關する禮節心得と適切なる作例を網羅す。

三宅克己氏著

改訂 寫眞のうつし方 (四版)

小形箱入
美木

定價 七拾五錢
送料 六錢

簡單に手軽に誰れにもできる寫眞攝影の絶好手引

水彩畫家として名聲噴々たる三宅克己氏が自己の經驗を基とし何人にも了解し得る様最も懇切に最も丁寧に寫眞攝影法を説かれたるものにして寫眞器械の選擇より現像法、印畫法等一切の事項を網羅し洩らす處なし精巧寫眞版十二葉を挿入し一々攝影に關する解説と注意を與へられたり、眞に寫眞界空前の好著也

中澤弘光氏、森脇 忠氏著及畫

スケッチの書き方

目下印刷中

水彩、油繪、鉛筆、色鉛筆、ペン畫等スケッチの書き方を最も平易に講述せられたるものにして一々挿畫によりて説明し初學者にても直ちに了解し得べき空前の好著也

ア ル ス 歐 文 叢 書

外國文藝の理想的註釋叢書

平田禿木氏解題詳註 (コンラッド作)

I 青

春 (再版)

定價 四十五錢
送料 四錢

現代英文壇の巨匠コンラッドの一大名篇

戸川秋骨氏解題詳註 (ギツシング作)

II ヘンリー・ライクロフトの手記

定價 六拾五錢
送料 六錢

近代英文壇中の一大珠玉、行ひすまざる近代人の田園生活感想録

平田禿木氏解題詳註

III 近代英詩選

定價 五拾五錢
送料 四錢

近代英詩中の名作佳篇を收む。巻末に「韻律法」を附す

戸川秋骨氏解題詳註 (エマーソン作)

IV 報 論

賞

論

目下印刷中

エマーソンの代表的のエッセー。英學生必讀の名作

裝幀高華空前の小形美本

中澤弘光氏畫 長田幹彦氏作 吉井勇氏作
 祇園舞姿 (三版) 小形箱入 定價一圓四十錢
 畫集 送料八錢

■繪と小説とで描き出された祇園情緒。

■濃艶を極めたる木版極彩色彩畫二十五葉、傑作小説七篇、短歌百首。

■艶麗無比装幀善美を極め燦然眩目すべき空前の美本。

■見返し祇園名妓合作よせがき。表紙縮緬模様高草無比。五色の葉。

歡樂の都京都を描き濃艶きはまりなき舞妓を寫し真に天下一品の稱ある弘光氏が丹青の美を凝らしたる着色版二十五葉すべてこれ木版手摺數十度刷の華麗なる、或はまた瀟洒なる淡彩のかすくを取り集め加ふるに綢綌の筆當代比するものなき幹彦氏の京都を主題とする傑作小説七篇と勇氏の情婉誦すべき短歌壹百首を以てす。畫集にして文集、文集にして畫集、真に天下空前の偉觀也。裝幀また善美の極を盡せり。

北原白秋氏著及裝

白秋小品 (忽再版)

四六判 定價一圓
 天金箱入 送料八錢

寶石の如く輝やかに毒草の如く匂高き散文集出づ。
 氏が最近田園生活の記録たる葛飾小品を初めとして絶海の孤島の怪しき物語を収めたる小笠原小品。瀟洒清新を極めたる桐の花小品。氏が出世作にして文壇を驚倒せしめし牛生の小自叙傳生ひたちの記。南國の匂新らしき朱鷲のかけ其他植物園小品。拵々の手記等七篇數十章繰り玉蟲の怪しき光と天鵲絨の手觸を忍ぶべき現文壇唯一の文集也。新らしき感覺と印象。詩以上の美と鋭さを見よ。

與謝野品子女史著

新譯徒然草 (最新刊)

四六判 定價九十五錢
 箱入 送料八錢

原文と光彩を争ふべき優麗典雅なる現代語譯出づ。

徒然草は何人も必讀すべき代表的古典文學にしてその奇警なる觀察と洒脫なる感想は永遠に新らしく近代人の胸裡に共鳴するところ少なからず。而も文體優婉を極め譯し易からず。女史數年の刻苦を以てこの新譯を完成せらる。真に原文と光彩を争ふべき理想的新譯也。代表的古典文學は純乎たる近代的作品として提供さる。

水野葉舟氏著

日記のつけ方 (再版)

美小本形

定價六十五錢
送料六錢

日記をつけることは生涯の貴い記録を作つてゆくばかりでなく、自ら自由に文章が書ける様になる何より簡易な方法である。どうすれば日記を豊富にし、趣味に精彩を興へることが出来るか。本書は作例數十篇を挙げ、日記のつけ方、文章の作り様を懇切に説明したまふ第一に、何より必要な新著である。

高村光太郎氏譯

ロダンの言葉 (最新刊)

箱四六版入

定價 壹圓五十錢
送料 十二錢

最高最大なる藝術と偉大なる人間思想の結晶

藝術界の巨人ロダンによつて語られたこれ等の言葉はすべて偉大なる人間性の根本より湧き出した藝術思想の結晶である。眞に人生に就て物を考へる人はまづ何よりもこの力強い思想に接して深い愛と熱情を吸収したがい、本書はロダン自身によつて書かれたものさ、ロダンによつて語られた言葉、クラデル、グセル、モークン、ロートンによつて録された多くの筆録とよりなり、日本藝術家の權威たる高村氏が一字一句動悸をうつ様な心で讀み、譯出されたものである。本書を讀まぬ人は人生に於ける最も大なる幸福の一つを得損つてゐる。挿入の寫真版は未だ世に紹介されぬ多くの傑作を収めてゐる。

湯朝竹山人編

小唄選 (最新刊)

箱三六版入

定價九十五錢
送料八錢

日本民俗藝術の精華たる民謡、俚謡、小唄の選集初めて完成さる。

最古の小唄隆達より近代に至るあらゆる珍本稀書を網羅せるもの本集の外に例なし。竹山人は多年小唄の研究に没頭しその造詣現代氏の右に出づる人なし。本書は氏が最善の努力と苦心を以てなれるものにして、未だ世に知られざる珍本の歌々を収めたれば、本書一冊以て小唄の全般を知るを得べく、幽婉にして哀切を極むる日本民族天真爛漫の調べは、本書の上に燦然たらん。

採録書目 隆達小唄百首。吉原はやり小唄總まくり。諸國盆踊唱歌。糸竹大全。當世こりた揃。増補松の落葉。若みどり。尾張國船唄集。鶯歌選。朝來考。潮來風。淋敷座の慰。浮れ草。御笑草諸國の哥。小歌志彙集。小唄のちまた。

最新刊

吉井勇氏作 竹久夢二氏畫

新譯 伊勢物語

千葉花明氏著

日本仇討物語 (上卷)

箱四六版入 美本

定價 壹圓拾錢
送料 八錢

箱四六版入 挿畫二十一葉

定價九十五錢
送料八錢

現代名家圖案集 (第一輯)

菊倍判 定價圓五拾錢
箱入 送料 十二錢

執筆畫伯

和田英 作氏
藤島武 二氏
長原止 水氏
石井柏 亭氏
津田青 楓氏
小杉未 醒氏
橋口五 葉氏
結城素 明氏
宮本憲 吉氏
山本 鼎氏
坂本繁 二郎氏
森田恒 友氏
織田一 磨氏

美術界の精英を網羅せる空前の大圖案集

本集は現代日本の藝術が産出し得べき最良最善の圖案集にして執筆家は總て現代に於ける第一流の名家を網羅せり。加ふるに用紙は特に本集のために特製せる最上の手漉局紙にして印刷亦精巧善美の極をつくす。收むる處器模様、手拭、表紙、カット、印刷物花紋、新更紗模様、装釘圖案等各名家が各その特長を發揮せられたるものなれば美術家、工藝家、染織家諸氏の参考書たることに、純藝術品として一般家庭に備ふべき理想的の圖案集也。

■多種多樣傑然たる着彩圖案二十五葉七十一圖■

與謝野晶子女史著

歌集 晶子新集

三六版線布製
箱入美本

定價八拾五錢
送料八錢

最新の傑作數百首を收めたる代表的歌集出づ

飛躍また飛躍、與謝野夫人の歌何ぞ洋々として無限なるや。「晶子新集」二卷、實に其の名の如く、豐麗幽婉なる夫人の新作を網羅して餘さず。歌境に於ける純正叙情詩の本派を知らんとする人は乞ふこの最新唯一の代表歌集を讀まれよ。

水野葉舟氏著

小品 自然の心

小形瀟西
清新美本

定價四拾五錢
送料六錢

自然の胸裡に透徹せる清新なる田園文學を見よ

葉舟氏久しく潜心して新に自然の愛を説く。未だ嘗て人の感ぜざる自然の心氏の正しき言葉に依りて描出せられ、神秘なる意味をおくる。人間の疲れたる心もこれによりて健にせらるべし。眞に清新なる前人未發の新自然觀也。

近刊

北原白秋氏著及畫 歌集雀の卵

水野葉舟氏著 聖書物語

中澤弘光氏著及畫 スケツ子の描き方

農學士細川文五郎氏著 家庭草花の作り方

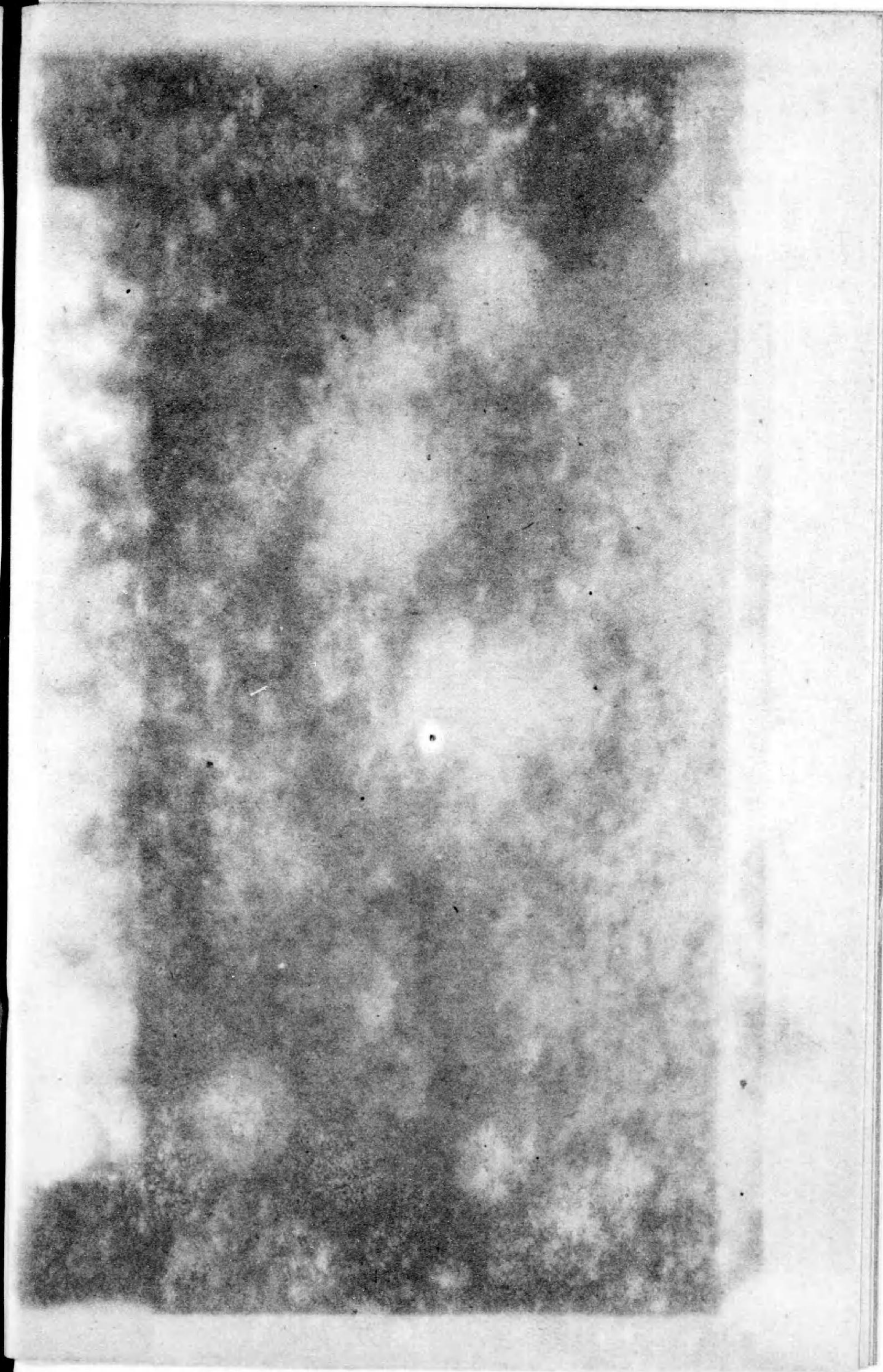
大矢好治氏著 園藝

芥川龍之介氏著 小説集 羅生門

ロマシ、ローラン著 民衆藝術論

千葉花明氏著 日本仇討物語下卷

177
29



終

